

マンダリン オリエンタル、 ダラ デヴィ チェンマイ Mandarin Oriental Dhara Dhevi Chiang Mai



Mandarin Oriental Dhara Dheviの正門。正門を抜けてもホテルレセプションまではかなり距離がある。手前にはホテル附属のショッピングビル「Kad Dhara」の施設が並ぶ

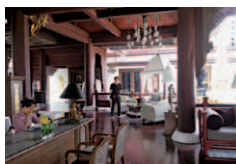


ホテル正面エントランス。1階のアーチ窓の部分は高級ブティックが入るアーケードになっている。正門からは優雅な馬車に乗ってホテルレセプションまで行ける



広大なリゾート内には様々なタイプのVillaが並んでいる。Villaが主体であるがコロニアルスイートと呼ばれる客室のある大規模なコロニアル棟もある

メイン棟レセプションロビー。左手にコンシェルジュデスクが見える



筆者 小原康裕

ホテルジャーナリスト。慶応義塾大学法学部法律学科卒。74年Munich Re入社。85年築地原健機代表取締役。2001年投資顧問会社原健設立、代表取締役CEO。※現在、著者のホームページで「世界のリーディングホテル」を連載中。多くの美しい写真と興味深いコメントで、世界中のホテルとそれら関連都市を紹介。ホテルだけでなくとどまらず、オリエントエクスプレスなど鉄道関係の掲載、季節刊行で世界遺産の案内などさまざまな情報が得られる。www.jhrca.com/worldhotel

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



美しい朝霧の中、正門からホテルレセプションまでの長いアプローチ。リゾートは実に24万2000㎡の敷地を有し、コロニアル棟を除いて施設はすべて寺院建築を模している



外観は寺院建築だが、内部は古代マンダレーの宮殿をイメージしてデザインしたスパ「The Dheva Spa」。最高レベルのアーユルベダを受けられる



フィットネスセンターに続く美しい回廊。ジムやヨガ施設のほか広い園内を回るレンタル自転車も人気だ



稲作田「ライスパディ」の景色を一望できるインフィニティプール



サンスクリット語で「タイムレス」という意味の地中海レストラン「Akaligo」



オープンエアに流れる風が気持ち良い「Rice Terrace Restaurant」。まだ営業前でセッティングはしていない



稲作田「ライスパディ」内は綺麗に木道が整備されており、気持ち良く散歩を楽しめる



クラシカルな蚊帳がエレガントなベッドルーム。この部屋は「Grand Deluxe Villa with Pool」で約244㎡の広さがありプライベートプールが付いている。メゾネットスタイルで2階にベッドルームがあり、広いテラスにはジャグジーも付く



見事なプライベートプールである。奥の東屋にはパーティー用キッチンが完備しており、屋外プールパーティーも面白い



1階にある明るく居心地よいリビングルーム。右手のガラス戸を開けて直接プライベートプールに出られる

初めてここを訪れる人は必ずや、「タクシーが間違えて寺院に連れて来た」と戸惑うほどの寺院建築が立ち並ぶ豪華ホテルだ。柵田「ライスパディ」をメインガーデンに据えて衝撃的デビューを飾ったフォーシーズンズリゾートに遅れること10年、マンダリン・オリエンタル、ダラ デヴィ(以下MO/DD)がより鮮明なコンセプト「古都チェンマイ」を掲げて2005年にこの地に開業した。

24万2000㎡の広大な敷地はリゾートと言うより一つの村の大きさと、かつ郊外ではなく市内住宅地に出現したホテルとしては例がないであろう。リゾート内は自転車の貸し出しもあり、これなくして敷地全体を見て回ることは不可能に近いほどの広さだ。チェンマイ旧市街は正方形の堀に囲まれ、幾百もの寺院がランナータイ王朝の建築様式で建立されている。MO/DDはその広大なホテル敷地内に主要施設や客室パビリオンをすべて寺院建築で表現し、ガーデン中心部には稲作田「ライスパディ」を配置した壮大な舞台装置の感がある。それはまさに「古都チェンマイ」そのものを、リゾート内に凝縮し具現化したコンセプトと共に設計者の強い意志が伝わってくるようだ。

MO/DDは60エーカーの敷地内に70近いヴィラ棟を含む全123室のスイート・ゲストルームを擁している。また、フレンチレストラン「Farang Ses」、上海邸宅を模した中国料理「Fujian」、ランナー王朝のタイ料理「Le Grand Lanna」をはじめ7つのレストランとバーがあり、どれも非常に質の高い本格的ダイニングで楽しめる。ホテル自慢のスパ「The Dheva Spa」は古代マンダレーの宮殿をイメージした特徴的デザインで、実に18のトリートメントルームを有し最高峰のアーユルベダを受けられる。その他、20軒以上が並ぶショッピングビル「Kad Dhara」、膨大な蔵書のライブラリー「Jum Sri Library」、フィットネスセンター、2つのスイミングプール、2つの広大なボールルーム、料理アカデミー、カルチャーセンター、キッズクラブなど数え切れないほどの施設をゲストに提供している。前述したようにこれはもう一つの村の規模であり、驚くのはすべての施設が寺院建築で表現されていることである。

MO/DDの「村であり街」全体が美術品の収集や文化活動などを通じて、タイ北部ランナー王朝文化の保存に貢献している感じが取り得る。当然ながら膨大な人員のスタッフを抱えるが、トップのマネージメントクラスから水田で草むしりしているスタッフまで、ホスピタリティーの概念を良く理解している。広い園内を歩いていると巡回している馬車の御者が乗らないかと気軽に声を掛けたりする。欧州からのゲストが多いと聞くと、トンボが戯れ案山子と水車が回る水田に王朝寺院の建物が映える風景は、欧米人が夢見る東南アジアの桃源郷を忠実に再現したものと言えるのかも知れない。